

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300573		
法人名	医療法人社団明星会		
事業所名	グループホーム明星		
所在地	岐阜県加茂郡富加町夕田373番地		
自己評価作成日	平成29年9月21日	評価結果市町村受理日	平成29年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2171300573-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

来年1月には開設17年目を迎える事となります。高齢化、認知症重度化によりグループホームの役割・出来る事が開設当時とは違ってきておりますが、地域住民の方々の暖かい支えやご家族の協力により毎日を穏やかに過ごすことができしております。又我ホームは鳥のさえずりや野山の草花などに囲まれた季節を感じられる自然豊かな場所にあり、季節の行事(栗きんとん作り、ヨモギ大福作り、紫蘇ジュース作り、干し柿、切り干し大根作り等昔馴染んだものを取り入れながら、田舎の一つの大家族として暮らしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開設以来、地域住民と家族の協力の下、管理者と職員は経験を積み重ね、利用者に温もりと安心感を与えられるよう、日々、支援に取り組んでいる。また、元職員が、干し柿や切り干し大根作り、季節のおやつ作り等の際には、大家族の一員として、継続的な関わりや援助に加わるなど、利用者にとっても、現職員にとっても、大きな力になっている。管理者と職員は、利用者の高齢化と重度化を、当たり前の変化として受け止め、本人がやりたいこと、出来ることを見つけ、地域や家族と支え合いながら、その人らしく穏やかに暮らせるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常生活の中で自然に理念を取り入れる事ができるように努力し、それが実践へと繋げる事ができている。毎月の職員会議時全員で復唱している。	職員は、利用者が培ってきた経験や歴史を大切にしながら、生活を共にしていく中で、理念の意義を認識し、職員間で共有している。また、地域住民と一緒に利用者を支え、家庭的な雰囲気の中で、その人らしく暮らせるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設からほぼ16年が経ち地域の皆様にホームの存在を理解していただく事ができている。地域住民の一人として地域に溶け込み交流ができており、地域の皆様には助けていただく事が多い。	日常的に、地域住民と関わりながら、利用者には、併設の施設や地域の催し物に、職員と共に出かけている。事業所前を走る駅伝選手への応援も、利用者の楽しみとなっている。各種ボランティアとの交流も継続しており、外出支援や清掃作業で協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催のふれあいカフェをグループホームで開催するなどし、認知症の理解や支援の方法を地域の人々に向けて生かすことができている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーの方々より幅広く意見をいただき、良い意見交換ができています。又いただいた意見をサービス向上へと繋げている。	運営推進会議には、行政、住民、家族が参加をしている。茶会や餅つきを取り入れるなど、親睦も兼ねている。事業所の現状や利用者サービスの取り組みを報告し、そこでの意見を事業運営につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当の方々とは常に連絡をとり、利用者様、入居希望者等の情報交換をするなど常に協力的で良い関係が築けている。	運営推進会議には、常に行政担当者の参加がある。事業所の実情を報告し、理解も得ており、いつでも、気軽に相談できる関係にある。会議の案内や報告事項なども、できる限り行政の窓口に出向き、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してはすべての職員が正しく理解し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。日中玄関は施錠をしない。	身体拘束ゼロのケアを実践している。言葉の拘束についても学び、利用者の行動を抑制したり、制限する言葉かけをしていないか、常に管理者と職員とで話し合いながら、拘束のないケアに取り組んでいる。ベッドからの転落、転倒、頭打の予防等の工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修・勉強会に参加し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により権利擁護を理解するように努めているが、今までの入居者様の中には成年後見制度を利用されている方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	すべて契約に関しては事前に十分説明し、理解・納得して入居していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・家族様の気持ち要望はホームの改善、ケアの質の向上に繋がるものとして大切にしている。面会時などには常に意見交換をおこなうようにしている。	家族会や運営推進会議、訪問時等に、家族の意見や要望を聞いている。肌着や衣服の材質について聞かれ、アドバイスをを行っている。また、ケアの際に、痛みを訴えることが多い利用者の心身状態について、職員間で共有し、適切に対応するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の皆さんが働きやすい明るいチームワークづくりに努め、各自が意見を発しやすい職場作りに努めている。	管理者は、日常的に職員と共に現場を担当し、忌憚なく話し合える関係にある。介護度の高い利用者も多いため、浴室の改装について全体で話し合い、3月過ぎに機械浴を導入する予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働ける職場環境を作れるように努力している。皆が同じ気持ちで明るく向上心を持ち、常に努力されている事を感じ、その気持ちが利用者様にも伝わっているように感じる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にはなかなか参加できないが、法人内での勉強会・研修には皆が参加しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は難しく、外部での研修に参加した時が交流の場となる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自然な形で馴染み親しむ事で信頼関係を築き、ご本人に不安を感じさせないように安心・安全を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思い・困りごと、今後の不安等と同じ気持ちになって聞き入れ、今までの実践を基に話し合いながら信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関から情報を頂き、何を求めてどのようにしたいのか見極め、適切な支援に繋げる事が出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員、又利用者様同士の関係がよくできている。共に暮らす仲間としての心得も自然に取り入れ気配りされる様子もうかがえる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員、ご家族、利用者様とが一体となり支え合っている。利用者様とご家族のきずなは大切に、その絆が途切れないように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺やお墓参りに行く、家に行き馴染みのご近所さんと会う、又ホームに来ていただき一緒に過ごすなど関係が継続できるように支援している。又気軽に来ていただけるような暖かいホーム作り心がけている。	併設の施設で行う誕生会や敬老会へ出かけたり、家族と共に、馴染みの人に会いに行くこともある。家族や知人の面会時には、居室でゆっくりと寛げるよう配慮し、次回の訪問に繋がるよう、雰囲気づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性・生活歴を知る事で良い関係ができている。重度化しても孤立することなく皆同じ家族だという思いで支え合っている為か、利用者様は常に穏やかな表情で暮らす事が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても今までの関係を大切にしている。お見舞い・訪問・電話での様子伺い、最後のお見送り等ご家族の支えになるよう相談・支援に努めている。関係が絶ってもご家族様の訪問も見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接により生活歴や馴染みの暮らしぶりを把握し、日々の生活の中に取り入れている。何気ない会話の中からお本人の思いや希望を見出しサービス向上へと繋げている。	職員に、「家へ行きたい」「電話したい」と訴えることもあり、利用者個々の思いを家族に伝えている。毎月送るホーム便りの裏面には、利用者の日常の様子や身体状況などを詳細に書き、家族の安心感につなげている。	家族は、利用者が穏やかに暮らしている姿を見聞きし、安心してホームに委ねている。利用者の満足感は、家族からしか得られないこともあり、これからも、家族へのメッセージを発信し続けられるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を理解したうえで今までの馴染みの暮らしができるように、その人にあつた支援ができるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態によりそれぞれの一日の過ごし方が違う。重度化・高齢化により午前・午後と部屋で休む方が増えてきている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・家族様、職員により意見を出し合うことにより、利用者様やご家族が望む生活ができるようにモニタリング、介護計画書の見直しを行い作成している。	介護計画作成に向けて、本人・家族の意見を聞いている。「寝たきりにならないように」「自分の思うような暮らしに」との要望がある。それを受け、二人介助での歩行を目標とし、下肢筋力の維持と向上を介護計画に盛り込み、支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で利用者様の思いや願いを引き出す気づきを養い、小さな事でもご本人の思いが込められている事を理解し、それを記録し、皆で共有する事で介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化とは言えないが、その時々状況に応じて柔軟な支援を行えているといえる。		

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体・地元ボランティアの方には行事・外出の支援等支えて頂くことにより季節の行事、外出などが行えていると実感し、感謝している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を基本としているが、ご家族の要望で法人の診療所に変えられる事が多くなっている。しかし協力総合病院を有し連携、適切な医療が受けられる仕組みになっている。	かかりつけ医は、以前からの医師を継続している利用もあり、受診は、家族の同行を基本としている。受診情報は、医師や関係者で共有し、法人の診療所や協力医とも連携しながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所医師・看護師に相談・助言をもらうことにより早期の処置・対応を行い、悪化を防ぐ等健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	環境が変わることで病院では混乱される事が多く、認知症も進行するため、医療機関と情報交換を行い早期の退院ができるように努力している。又入院時は頻りに様子伺いに行くことで利用者様・ご家族が安心して治療できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の在り方について説明し納得していただいている。又重度化・終末期においてはその都度状況に合わせてご家族と相談しながら支援の取り組みを行っている。	重度化や終末期についての指針を明文化し、家族に説明している。終末期ケアは、事業所で出来る範囲の医療行為までとしている。利用者・家族は、最期まで事業所での暮らしを望むことが多く、老衰による終末期ケアの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法の勉強会に出席したり、急変・事故等に対応した職員より指導を受けることにより実践力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体の老健施設と合同で避難訓練を行ったり、グループホームで独自に避難訓練を行う。又ご近所の方には避難時の見守り役などお願いし協力体制ができています。	新たにできた土砂災害の対応マニュアルに基づき、避難を重点にした訓練を行っている。毎月行うホーム独自の訓練と併設の法人施設との合同訓練で、総合的な防災への対応力を整えている。	水や食料品を含めた備蓄品の入れ替えや、確認等、定期的なチェック体制の具体化を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症重度にて言葉の理解ができない方が多い中でも、一人一人が大切な家族と思い尊重し、その人に合った声掛けをしプライドを傷つけないようにしている。	起床後のパジャマから普段着への着替えや、季節に合った服装の選択など、本人の自尊心や誇りを傷つけることなく、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。居室へ入る際は、マナーを守り、プライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症重度にて自己表現・自己決定ができない方が多くなったが、常に寄り添い生活を共にする事でその人の思いを汲み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化により職員側の都合を優先する事が多くなったが、その人の思いやペースを大切に自由に過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年を重ねても女性らしさを保っていただきたい。洋服など自分で選べない方はその人に合った服を着ていただく事で、喜びを感じて過ごしていただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や献立を取り入れ、季節感を感じながら楽しく食事ができるようにしている。又食事の準備や片づけなど一緒に和気あいあいと楽しく行っている。お手伝いの後は「よう使ってください」と利用者様から喜びの声が聞こえる。	食事は、利用者の好みを取り入れながら、職員手作りの家庭的な味付けで提供している。利用者は、食材の下準備や片付けなど、役割を持って出来ることを喜び、職員と一緒に会話をしながら、それぞれのペースで食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	重度化により食事介助を必要とされている方が増えてきているが、その人にあった食事の量、形態をすることで栄養バランス、水分摂取ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりご本人の有する能力に応じて毎食後口腔ケアができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し、早めに誘導する事で失禁を減らす支援を行い、又失禁ある方でも日中はできるだけ布パンツを使用し気持ちよく過ごすことができるようにしている。	利用者の数名は、布パンツを着用し、他は、リハビリパンツとパッドで対応している。日中は、声かけとトイレ誘導をこまめに行い、夜間は、パッド交換をタイミングよく行っている。起床時には清拭を行い、清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	重度化により自力排便ができない方が多くなってきているが、食事や水分量の調整、適度な運動などにより便秘を改善する努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度化により一般浴が困難になってきている利用者様が多くなってきているため、機械浴を導入検討しているが、職員二人で対応し安全に入浴できるように支援している。	重度化によって入浴が困難になってきた利用者には、安全で安楽な入浴ができるよう、介助者2名で支援している。入浴を嫌がる利用者はなく、介助者と会話をしながら、リラックスしたひと時を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢・体調・習慣に合わせて日中部屋で休んでいただくようにしている。又夜間はその人の習慣に合わせて照明を工夫したり、言葉かけを工夫するなどし良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬については把握している。変更がある時はその都度申し送り・記録して服薬の支援と状態の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢化・重度化により生活歴を生かした役割は困難になりつつあるが、その中でも全員で外出を行い季節を感じて頂いたり、昔馴染んだ事(干し柿・梅干し作り、切り干し大根作り、餅つき等)取り入れ楽しみのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お寺まいり、墓参り、家に行きご近所さんに会いに行く。又ボランティアさんの協力を得て歌・踊りを見に行くなど外出の支援を行っている。	周辺の散歩は、重度化により、困難な状態が続いている。併設施設での催し物へも、車で送迎している。家族やボランティアの協力を得て、一時帰宅したり、お寺や墓参り、地域のイベント等へ出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所で行っている。1名様のみ少しのお金を持参されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・電話のやり取りを自由にされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの大きな窓から実った柿木、野鳥、草花、桜の花が見られ季節を感じることができ環境にある。共有空間には歩行の障害になるものは置かないようにし安全に生活できるように支援している。	共有の空間は明るく清潔で、ソファの手作りカバーや飾り付けなどに生活感があり、落ち着いた雰囲気である。窓越しに自然豊かな風情を眺めることができ、利用者が作業をしたり、気の合う同士がゆっくり寛ろげるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下中央には見え隠れする談話コーナーがあるが、重度化によりご自分で移動できない方がほとんどの為にあまり利用されていない。リビングでは気の合った利用者様同士が自然とお話できるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの家具・椅子・遺影などを持ち込まれご家族・ご本人と自由に飾り付けされるが、危険と思われるような場合は職員側からアドバイスしている。	家族の面会時に、居室でゆっくり過ごせるよう、椅子やテーブルを備えている。また、馴染みの家具や小物を自由に持ち込み、好みに配置している。職員は、換気や掃除、利用者の整容などにも気を配り、居心地のよい居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢化・重度化により車椅子使用が多くなってきているため、できるだけ空間を広く保ち安全に生活できるように支援している。		